

1 自己評価及び外部評価結果(カノンユニット)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392100109		
法人名	社会福祉法人 コーアンドアイ		
事業所名	グループホーム 額田あじさいの家 カノンユニット		
所在地	岡崎市榎山町字宮東82番地1		
自己評価作成日	平成21年9月5日	評価結果市町村受理日	平成21年10月7日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2392100109&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中昭和区鶴舞3-8-10 愛知労働文化センター3F		
訪問調査日	平成21年9月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生活リハビリテーションを重点に置いており、配膳下膳はもちろんのこと、出来る限り一緒に調理したり、施設内及び自室の掃除、洗濯物を干すこと、たたむこと・アイロンかけ等、日頃、御自宅でされていたであろうことは、出来る限り参加していただけるように、取り組んでいる事。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から7ヶ月を経過したばかりの新進のホームであるが、母体となる特養施設を近くに擁することから、運営手法やケアのノウハウを水平展開的に活用している。管理者はじめ職員の一部は特養出身者で占められ、法人理念の徹底等、管理者と職員との息の合ったホーム運営が行われている。利用者の要介護度が低いことから、日常の家事全般に係わる頻度がすこぶる多い。洗濯物を干したり取り込んだり、あるいはたたんだり、利用者がほぼ一手に引き受けている。食後には、女性利用者が厨房内で食器洗いに専念していた。居室の掃除も、職員と協力して利用者が実施する。ホームの近隣に商業施設がないため、買い物外出や外食支援には難があるが、散歩は毎日の日課として実施している。家族アンケートの結果も良好で、家族的なケアへの賛辞が多く寄せられた。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域密着型サービス」とは何かをしっかりと把握してもらい、重要性を理解し日々の活動に繋げている。	法人の理念である「報恩感謝」の精神を基軸として、ホームの運営方針4項目が定められている。その主旨は、「利用者の尊厳重視」、「自立支援」、「自主参加による笑顔の創出」、「経営基盤の確立」である。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りや清掃活動に参加したり、毎日の散歩の中で、地域の方との会話を大切にしている。	開設から半年、地域清掃やお祭りに参加して地域への第1歩を踏み出した。地域住民のホームへの呼び込みには至っていないが、来年度はホームイベントへの招待を計画している。	地域との交流についての切り口は数多い。運営推進会議での意見を参考にして、幅広い活動の展開を期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだ、今の所実施できていないのが現状です。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で頂いた貴重なご意見を尊重し、活かせるべき項目については検討し実施している。	既に3回の運営推進会議が開催された。ホームからの報告事項に加え、ホームが抱えている課題についてもメンバーから貴重な意見をもらっている。メンバーの出席率を高めるため、開催日の変更を決めた。	今後の会議の議題には、外部評価との連動に関する項目を追加し、提供するサービスの質の向上に、より役立つ会議としていただきたい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	特別事例に関しては、密に連絡を取り状況把握をしていただけるようにしているが、事業としての報告は、密に行えていないのが現状ではあります。	困難事例等の相談に乗ってもらっている。地域包括支援センターの職員を通じて、ホームの情報が伝えられている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	認知症の方の行動パターンをカンファレンスで話し合い、また資料を読むように指導し、その方の行動を制限することの無いような対応を心がけている。	近くを交通量の多い道路が通るため、玄関は常に施錠されているが、利用者は簡単に開けることができる。言葉による拘束についても、管理者から指導が行われている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待防止」についての、勉強会を特別に実施したことは無いが、言葉の暴力、無視等も虐待になることをカンファレンスで指導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実施できてません。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分な時間をとって理念を説明し、重要事項説明書等を把握していただいている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には、出来る限り面会に多く来ていただけるように声掛けをし、面会時には職員より日頃の状況を直接説明するようにしている。また、面会時にお聞きした内容を記録に残し、活用できるようにしている。	開設から間もないこともあり、家族アンケートの自由記述欄には多くの意見が寄せられた。改善が可能と思われるものには、すぐにも取り組もうとする積極性がうかがえる。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回カンファレンスを行い意見を聞いている。また、男性管理者に話にくい事に関しては、女性職員に聞いてもらい意見を反映できるように心がけている。	ホーム内には自由な空気が漂っており、職員はいつでも自分の意見を管理者に伝えることができる。管理者の人柄のせいもあってか、開設以来離職者はいない。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者自ら現場に入り、勤務状況を把握するようにしている。休憩室が無いが、休憩時間は、事務所を開放してリラックスできるように配慮している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等には積極的参加できるように心がけている。また、自ら研修に参加したいと言う職員に関しても受け入れを出来るように配慮している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内の委員会・勉強会には積極的に参加している。また、近隣の部会や地域の会議にも参加して情報を活用するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面接の時点で、生活状況の把握をするように努め、直接本人と直接お話をし信頼関係を築けるように心がけている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時に御家族の要求しているものを把握し、対応できるのか、事前に検討している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時に状況把握をきちんと行い、入居初期の段階での生活等を御家族とも話し合いを行っている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方に、色々な事を教えて頂きながら、ともに生活していると思っただけのように努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	可能な限り、1週間に1回は面会に来ていただけるようお願いし、日々の状況を細かく説明し、ご家族との関係を蜜にしてもらえるように心がけている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある美容院に行ってもらったりしたり、昔住んでいた住所に行ったりする事により、昔との繋がりも重視するようにしている。	利用者の誕生日には、本人の希望を聞く「お楽しみがケア」がある。以前住んでいた場所は畑になってしまっていたが、職員と共にそこまで足を運んだ利用者がいた。	個別ケアの原点でもある、「馴染みの関係の継続」の取り組みとして評価したい。今後も、馴染みの人や場所を大切にしたい支援の継続を願いたい。
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション等行う際には、気のあった方同士で楽しく行えるように配慮している。また、孤立しないように、職員が中に入って、会話を進めるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方については、時折お見舞いに行ったり、退院後の相談を受けたりしている。また、亡くなった方についても、葬儀に参列している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を把握できるように声をかけを多くすることを、心がけている。また、安心して暮らしていただける最善の方法を、各機関と連携して検討している。	要介護度の低い利用者が多く、ほとんどの利用者は自らの意思を表出できる。今、一番多い要望は、「買い物」、「ドライブ」等の散歩以外の外出である。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居面接時の聞き取りで、生活歴等を把握し記録を残すことで、職員間の情報共有に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申しお送り、介護日誌等で状況を把握し、情報共有に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時には、出来るだけ細かい状況を報告し、御家族の思い、意向をその都度確認するようにしている。	介護計画は、本人及び家族の意向が反映されて作成されていた。しかし、介護支援専門員のみでモニタリングを実施しているケースもみられ、介護計画と現場のケアとの連動が図られていない。	介護計画に則って現場のケアが実践されるということを、職員一人ひとりが認識することが肝要であろう。システム構築や職員への周知には、教育も必要となる。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活チェック表を作成し、本人の状況を適宜記録するようにしている。それを、いつでも確認できるように活用している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族の外出、外泊のご希望には、柔軟に対応し本人・御家族の要望にも柔軟に対応できるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等を活用して、地域の代表の方との交流を図り、情報交換や協力をいただいている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に、主治医は近隣にある内科と歯科に変更して頂くようにし、その主治医への通院は、職員が受診している。その他の病院を希望される場合は、希望に応じて御家族に対応をいただいている。	ほとんどの利用者が、提携医をかかりつけ医にしている。他のかかりつけ医をもっている利用者であっても、緊急時は提携医の受診を受けることができるよう、家族とも調整している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝のバイタル測定を行うことにより、入居者一人ひとりの状況を把握し、変化に気づけば、各機関・御家族に連絡を取り、適切な対応が出来るように心がけている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、1週間に1回は御家族と連絡を取るなど、状況把握に努めていた。受け入れ状況に関しても逐次御家族に報告するようにしていた。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まだ、事例はないが、御家族・医師・職員間の連絡を密にとり、安心・納得が出来る対応を心がけるように考えている。	すぐに重度化や終末期のケアを必要とするような利用者はいないが、この件については、利用開始時から家族との話し合いを行なっている。運営母体が特養であることから、利用申し込みの併願をしてもらっている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に2回ほどある、本部の勉強会に参加し、すべての職員が対応できるように取り組んでいる。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年に2回実施する計画にしている。また、頭の中で、シミュレーションするように声掛けをしている。	全館にスプリンクラーが設置されている。避難訓練を行い、5分以内に利用者全員が指定された避難場所へ移動できることを確認した。また、夜間想定での避難訓練は実施していない。	夜間帯は、夜勤者1名体制となる。通報や誘導等の対応手順の熟知や、夜間を想定した避難訓練の実施が望まれる。地域との協力体制の整備も待たれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	何を行うにしても、まずは声かけを行い、本人の意思を尊重するようにしている。名前を呼ぶ際も敬意を持って接するようにしている。	「報恩感謝」の実践として、利用者を敬うことを第一義としている。そのため、語調が強すぎたり、言葉遣いの荒い職員には、管理者から指導が行われる。利用者の呼び名は、家族と相談して決めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	質問の仕方を工夫したり、個人の意思が表せるように配慮している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れ自体はあるが、常に声かけをし、また体調や天候なども考慮しながら、1日を過ごしていただいている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	パジャマへの着替えは、基本的に行うようにしている。また、入浴後の着替えについても職員と一緒に着る服を選んで頂けるように支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作りは、入居者の方にも参加して頂けるよう配慮しているが、実際は中々意見を出していただけないのが現状である。準備・片付けは職員と一緒にしている。	食事介助を必要とする利用者がいないため、職員は同じ食卓について同じ食事を摂っている。会話も弾み、和やかな食事風景が展開されていた。食後には、職員に混じって食器洗いを手伝う利用者の姿が見られた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量・水分量を記録し、嗜好についても記録に残し、好んで食べて頂けるものを工夫して提供している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、確実にしている。見守りの必要な方に関しても、付き添って行っていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に誘導が必要な方に関しては、表を作成して誘導を行っている。	排泄に関しては自立度が高く、トイレ誘導を必要とする利用者は少ない。紙おむつ利用者が、短期間のうちにリハパンになり、さらに布パンツに替わった改善例も報告された。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを把握できるように、表を作成し毎日の記録としても残している。食事や飲み物を工夫して排便を促すようにはしているが、医師に相談して下剤の服用も行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に入浴時間は設定しているが、特に御希望があれば、その都度対応できるようなシステムにはなっている。	1名の入浴拒否者を除けば、最低でも週に2回の入浴支援が行われている。毎日のように入浴している利用者もいる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない方に関しては、その都度お話を聞く事により解消される方が多いので、お茶を飲んでいただき、話し相手なるようにしている。逆転気味の方に関しては、日中活動を多くするように申し送り等で情報を共有するようにしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテに薬剤情報を挟み、だれでも見れるようにしている。一人ひとりを名前付きの袋に入れて、チェック表も活用して間違いの無いように工夫している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事は、御自分でしていただけるように配慮し、出来た時には、感謝の言葉を言うようにしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一日一回の散歩は必ず行うようにしている。コースを分けて、身体能力に合わせた設定をしている。また、大勢では行きたくないという方に関しても、可能な限り対応するようにしている。御家族にも受診時等にご協力いただいている。	散歩が日常的に行われており、途中で声を掛け合う住民もできてきた。ホーム近辺には商業施設が全くなく、買い物外出の実施が困難なことから今後の課題となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御自分で管理されている方も見えるが、基本的に職員が管理している。買い物時には、財布を渡し、御自分で払っていただくようにしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族の御協力を得て、出来る限り連絡を密にとれるようお願いしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レクリエーションで作成した物を展示したりしている。生活感や季節感に関しては、その月その季節の物を置くように配慮している。	ユニット間の仕切りを外すと、各ユニットのホールが連結して大広間となる。ガラス戸は大きく取っており、明るく開放的な雰囲気である。このホールが中庭へとつながっており、各種のイベント会場として使用される。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの配置は圧迫感の無いように配慮している。また、混乱しないように2ユニット別の配置にしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコン照明以外は、すべて持ち込みにさせて頂きたい、使い慣れたものを使っただくように配慮している。	どの居室も、使い慣れた家具や調度が揃っていた。籐のイスにもたれかかり、物思いにふける男性利用者がいた。衣装をたくさん持ち込んでいる女性利用者は、気に入った衣服の盗難を心配していた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方の身体状況・精神状況に応じて、環境整備を行うように心がけている。		

1 自己評価及び外部評価結果(更紗ユニット)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392100109		
法人名	社会福祉法人 コーアアンドアイ		
事業所名	グループホーム 額田あじさいの家 更紗ユニット		
所在地	岡崎市榊山町字宮東82番地1		
自己評価作成日	平成21年9月5日	評価結果市町村受理日	平成21年10月6日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2392100109&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中区鶴舞3-8-10 愛知労働文化センター3F		
訪問調査日	平成21年9月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>生活リハビリテーションを重点に置いており、配膳下膳はもちろんのこと、出来る限り一緒に調理したり、施設内及び自室の掃除、洗濯物を干すこと、たたむこと・アイロンかけ等、日頃、御自宅でされていたであろうことは、出来る限り参加していただけるように、取り組んでいる事。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p> </p>

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域密着型サービス」とは何かをしっかりと把握してもらい、重要性を理解し日々の活動に繋げている。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りや清掃活動に参加したり、毎日の散歩の中で、地域の方との会話を大切にしている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだ、今の所実施できていないのが現状です。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で頂いた貴重なご意見を尊重し、活かせるべき項目については検討し実施している。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	特別事例に関しては、密に連絡を取り状況把握をしていただけるようにしているが、事業としての報告は、密に行えていないのが現状ではあります。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	認知症の方の行動パターンをカンファレンスで話し合い、また資料を読むように指導し、その方の行動を制限することの無いような対応を心がけている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待防止」についての、勉強会を特別に実施したことは無いが、言葉の暴力、無視等も虐待になることをカンファレンスで指導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実施できてません。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分な時間をとって理念を説明し、重要事項説明書等を把握していただいている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には、出来る限り面会に多く来ていただけるように声掛けをし、面会時には職員より日頃の状況を直接説明するようにしている。また、面会時にお聞きした内容を記録に残し、活用できるようにしている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回カンファレンスを行い意見を聞いている。また、男性管理者に話しにくい事に関しては、女性職員に聞いてもらい意見を反映できるように心がけている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者自ら現場に入り、勤務状況を把握するようにしている。休憩室が無いが、休憩時間は、事務所を開放してリラックスできるように配慮している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等には積極的参加できるように心がけている。また、自ら研修に参加したいと言う職員に関しても受け入れを出来るように配慮している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内の委員会・勉強会には積極的に参加している。また、近隣の部会や地域の会議にも参加して情報を活用するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談・面接時から、入居者・ご家族が何を求めているかを話し合い、出来る限りの対応を検討するようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談・面接時から、入居者・ご家族が何を求めているかを話し合い、出来る限りの対応を検討するようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談・面接時から、入居者・ご家族が何を求めているかを話し合い、出来る限りの対応を検討するようにしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	歌が上手な方・編み物が上手な方・折り紙が上手な方等、入居者が先生になって入居者同士の交流が図れるようにしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、居室で落ち着いた雰囲気の中でお話出来るように配慮している。また、最近の状況も細かく説明するようにしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族にお願いして、ご自宅にも連れてっていただけるように声掛けをしている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	基本的に一人にならない様に、レクリエーションへの参加は促している。また、座る座席についても配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご家族と連絡をとるようにし、状況把握を行っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時センター方式の聞き取りで、今までの暮らし等を考慮し、本人・ご家族の意向をお聞きしてケアの方法を検討している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時センター方式の聞き取りを実施し、把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人一人に担当職員をもうけて、責任を持って把握に努めるようにしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヵ月毎のケアプランの見直しを順次行うようにし、そのときにあった介護計画を作成するようにしている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を毎日記載するようにし、また、連絡帳を活用して、職員間の情報交換も行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者や家族の希望には、出来る限り応えるようにしている。但し、集団生活であることも認識していただけるようにも声掛けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方に、演奏会や手品をしていただいたりして、楽しんでいただいている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の病院以外は、基本的にご家族対応としている。入居者のご希望で違う病院にいきたいと訴えがあった場合には、早急にご家族に連絡し対応している。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定により、基礎体温等を把握し、変化に早く気づけるようにしている。変化があった場合には、主治医と連絡をとり、適切な処置をしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は、週に1回はご家族と連絡を取り、状況把握をするようにしている。面会時には、看護師に状況を直接お聞きし、退院後の話も行うように心がけている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の段階で、家族には協力を要請している。主治医にも協力は快諾していただいている。今後、実際に発生した場合は、早い段階でご家族と協議するように考えている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	本部の勉強会に参加を予定している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	まだ行っていないが、昼間と夜間を想定した避難訓練を計2回予定している。入居者の方にも参加していただく。運営推進会議にて、地域の方の協力もお願いしてある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であることを意識し、接するように心がけている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の目線に合わせて会話することを心がけ、小さな意見も見過ごさないようにし、御自分で判断できるように促している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れが、決まってしまう。今後入居者の声をどんどん取り入れ、個別ケアを目指して行きたい。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びは、基本的に御自分で行っていただいているが、気候等を配慮できるように職員も一緒に選ぶようにもしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事をすることや、準備片付けも一緒に行うことで、味覚・好物の把握が出来、話題作りにも役立っている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮し、献立を作成している。食事量をチェック表に記載し、摂取量も把握するようにしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず、口腔ケアをしていただき、口腔内の清潔保持につとめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄が出来るように、入居者の行動を観察し、声かけを行うようにしている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給と繊維質の多い食材を多く摂って頂くようにするなどし、また毎日の体操と散歩をするようにしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望を聞き、入浴していただくようにしている。身体能力を考慮して、入浴の方法を考えて援助している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は体操や散歩を実施し、適度な運動をしていただき、夜間は安眠できるように配慮している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ミスの無いように、チェック表を作成し管理している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今まで行えてきた事を継続して出来るように支援し、出来た事に関して声を掛けるようにしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望にあわせて、喫茶店・買い物・ドライブに行くなど、外出する機会が増えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>買い物時には、ご自分で財布を持っていたき、レジはご自分で行っていただくように支援している。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>要望に応じて、電話を掛けられるようにしている。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングからの見える景色で、四季の変化を感じていただき、共用の空間では、一緒に飾り付けをするなどして、家庭であると言う意識を感じていただけるようにしている。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>友人関係等を尊重し、机の位置や配席を考慮している。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れたベッド・タンスなどを、持ち込んでもらい、今までの生活が継続できるように配慮している。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>状況にあわせて環境整備に努め、自立支援につなげている。</p>		